

滋賀県における体力低下の原因とその背景

鶴口 麻衣 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 柴田 俊和

キーワード 持久力, 運動の継続, 学校体育

1. 緒言

近年, 様々な環境の変化に伴い, 子どもの体力や運動能力の低下が問題視されるようになった。

原因として, 電子機器の普及, 公園などの遊び場の減少, 治安の悪化, お受験の流行などが挙げられる。

しかし, 北に隣接する福井県では新体力テストの平均が全国で1位である。

そこで, 本研究では滋賀県と福井県の新体力テストの結果や学校体育の実態, 県の教育指針を比較考察することにより, 滋賀県の子どもの体力, 運動能力を高めるために, 何が必要なのかを明らかにする事を目的とする。

2. 研究方法

本研究は文献やインターネットで得られた資料をもとにした比較考察による研究である。

小学校に限定し, 滋賀県, 福井県, 全国の新体力テストの平均を比較し, 滋賀県は何が劣っているのか, また, 政策面や教育面で福井県と何が違うのか, さらに今の滋賀県の子どもたちにはどんな対策が必要なのかを研究した。

3. 結果と考察

(1) 平成 24 年度滋賀県と福井県の新体力テストの結果の比較考察

滋賀県の児童は敏捷性, 持久力, 投力が不足していることが分かった。特に持久力を示すシヤトルランの結果においては, 全国平均や福井県の平均に比べて男女とも 10 回以上低い値を示していた。

小学校では, 体育の専科教員が授業をしている訳ではなく, 適切な運動が処方されていない

事が多いと思われる。

(2) 教育行政施策の比較考察

両県とも, 「学校体育の充実」, 「食育の充実」, 「家庭, 地域の連携」, 「学校保健に関する組織体制の充実」が重要視されており, 強化, 充実に図るための教育施策がなされている。

(3) 学校における体力改善の具体的取り組みの比較

滋賀県では, 学校の備品の充実など環境面の工夫を, 体育主任が中心となって企画, 実行しているところが多い。中には学校全体で, 特別に時間を設けている所もあった。それに対して, 福井県では, 地域や社会と連携し, 放課後の時間を活用して様々なスポーツに触れあう機会を設けている。また, 地域の方との交流の中で, 礼儀やマナー, 言葉づかいや後片付けの大切さなど, 基本的な学習態度を育成することもなされている。

4. まとめ

滋賀県の児童は, 持久力や瞬発力を高める運動を行う必要があると考える。しかし, いきなり激しい運動をすると運動嫌いな子どもたちが増えてしまうので, 遊びから入っていくことが大切であると考え。そして, 地域の方々の交流の中で, 礼儀やマナー, 言葉づかいや後片付けなど, 基本的な学習態度の育成が必要ではないかと考える。また, 個人の目標を設定し, 努力してみるという大切さを理解させる必要もあると考える。

引用・参考文献

滋賀県教育委員会 (2012), 平成 24 年度新体力テスト平均, 1 日 30 分運動の取り組み